

令和7年度 第1回南砺市子ども・子育て会議 議事録

I. 開催日時 令和7年10月23日(木) 午前10時～正午

II. 開催場所 南砺市役所 別館 大ホール

III. 出席者 (1) 委員 15名

宇野会長、竹田委員、上坂委員、北島みどり委員(代理)、内山委員、
野村委員、小原委員、山崎委員、唐嶋委員、前田委員、川邊委員、
北島一朗委員(代理)、斎藤委員、森田委員、正木委員

(2) 事務局 10名

山田部長、柴田所長、山田課長、道宗係長、石崎係長、但田係長
山田主幹、高瀬主幹、窪田主任、蒲沼主事

IV. 欠席者 委員3名

高野委員、石村委員、竹中委員

V. 傍聴人数 0名

VI. 議題 1 開会

2 報告事項

(1) 第2期南砺市子ども・子育て支援事業計画の位置づけと進行管理(点検・評価)

(2) 令和6年度 教育・保育、地域子ども・子育て支援事業の実施状況

(3) 令和7年度 教育・保育施設の利用定員と認可定員について

3 協議事項

(1) 令和7年度 特に重点的に実施している事業・取組について

(2) 乳児等通園支援事業(「こども誰でも通園制度」)の実施に向けて

4 その他

(1) 次回の会議について

(2) 講演会等の案内について

5 閉会のあいさつ

VII. 会議録

(午前10時00分 開会)

1 開会

令和 7 年度第 1 回会議を開催。事務局より交代委員が紹介された後、宇野会長の挨拶で議事が開始された。

◇ 交代委員の紹介

母子保健推進員連絡協議会 会長 正木 美佐子 様
小学校校長会 代表（福光東部小学校）竹田 千春 様
地域づくり協議会連合会 代表 高野 豊 様
南砺市商工会事務局長 石村 真由美 様
南砺市保育士会 会長 中段 久美子 様
保育園保護者代表（井波にじいろ保育園父母会長）野村 将史 様
南砺市 PTA 連絡協議会 会長 山崎 賢治 様
生涯学習連絡協議会 会長 前田 悟志 様

2 報告事項

事務局より、第 2 期事業計画の進捗、令和 6 年度の事業実施状況、令和 7 年度の施設定員について報告が行われた。

- (1) 第 2 期南砺市子ども・子育て支援事業計画の位置づけと進行管理(点検・評価)
- (2) 令和 6 年度 教育・保育、地域子ども・子育て支援事業の実施状況
- (3) 令和 7 年度 教育・保育施設の利用定員と認可定員について

【主な質疑応答】

(委員長) 資料で子育て世帯の転出が挙げられていましたが、特に市外への転出が多いと見受けられます。具体的にどの地域へ転出されている方が多いのでしょうか。

⇒ (事務局) 市外への転出先は、県内では砺波市、富山市が多く、全体の約 50% を占めます。県外では石川県への転出が約 1 割です。

(A 委員) 事業計画の目標値について、『推進』という表現では具体的な達成度が分かりにくいと感じます。例えば、子どもの医療費助成が高校生まで拡充された成果など、市民に説明できるよう客観的な評価指標や実績の示し方を改善すべきではないでしょうか。

⇒ (事務局) ご指摘を真摯に受け止め、記載内容の改善や、事業全体の評価手法について検討を進めます。

(B委員) 『家庭教育力の充実』として実施されている子育て講座について、どのような内容で、どのくらいの頻度で、何人くらいの保護者が参加されているのか、具体的な実施状況を教えていただけますか。

⇒(事務局) 子育て支援センターで実施している祖父母講座や地域の方々が講師となる行事になり、その事業への参加者数となります。利用対象年齢に対する利用実績データは把握しておらず、今後は、対象人口に対する利用率など、より詳細な数値を把握できるよう努めてまいります。

3 協議事項

事務局より、以下の2点について説明があり、協議が行われました。

- (1) 令和7年度 特に重点的に実施している事業・取組について
- (2) 乳児等通園支援事業（「子ども誰でも通園制度」）の実施に向けて

【主な質疑応答】

(C委員) 重点事業の資料に関して、3点ほど要望があります。

1. 保育園児対象のプログラムとありますが、認定こども園の園児も対象となる旨を明確に示していただくよう、表記にご配慮ください。
2. 発達に気がかりのある子どもへの支援について、園との連携をさらに強化し、継続的かつ力強い後押しをお願いしたいです。
3. 子ども食堂への補助について、立ち上げ時だけでなく、運営が継続できるよう支援策の強化をぜひ市として検討していただきたいです。物価高騰の影響もあり、継続が困難な団体も出てきています。

⇒(事務局) 1. 表記には配慮いたします。
2. 園と密に連携し、保護者に寄り添った支援を継続していきます。
3. 継続支援の重要性は認識しており、県とも連携しながら、前向きに検討を進めてまいります。

(D委員) 南砺市の人口減少は深刻です。若い世代の定住促進策として、保育料の完全無償化や、市外からの転入者への交通費補助など、より抜本的な財政支援を検討すべきです。現在の取り組みだけでは、他市町村との競争に打ち勝つのは難しいのではないでしょうか。

⇒(事務局) 貴重なご意見ありがとうございます。市の制度が若い世代に十分に伝わっていない課題もございますので、情報発信の強化にも重点的に取

り組みます。

(E 委員) 市の取り組みの情報発信について、パンフレットを置くだけでは不十分ではないでしょうか。例えば、テレビ CM を放映したり、SNS を積極的に活用したりするなど、もっと大胆な方法で市の施策を PR してはいかがでしょうか。

⇒ (事務局) ご指摘の通り、情報発信は引き続き重要な課題と認識しております。テレビを活用した広報も含め、より戦略的な情報発信について検討を進めてまいります。

(A 委員) 市が提供する支援策の一覧表は、一般の市民には『単独事業』といった専門用語が分かりにくいです。資料の表現をもう少し平易にしてほしいです。また、コドモンの DX 導入で保護者の安心に繋がったように、市民の具体的な意見を積極的に聞きながら、事業の改善や新たな取り組みを進めていただきたいです。

⇒ (事務局) 資料の分かりやすさについては、今後の課題として改善に努めます。シティプロモーションとも連携し、ターゲット層に合わせた情報発信を強化します。DX についても、多角的な視点から取り組みを推進してまいります。

(委員長) 南砺市の計画は全国の民生委員児童委員大会でも高く評価されました。しかし、私のような年配者にとっては、DX 化はまだ理解しづらい面もあります。デジタル化だけでなく、紙媒体での情報提供も引き続き重要だと感じています。行政だけでなく、地域全体で子育てを支える体制を強化していくべきです。

(F 委員) 保護者は忙しく、市の様々な事業を全て把握するのは困難です。学校の参観日などの機会に、市職員が直接出向いて事業内容を説明する場を設けていただけないでしょうか。また、既に目標を達成しているプランの目標値は、今後見直される予定はありますか。

⇒ (事務局) ご指摘の目標値については、全国学力調査を用いており学年ごとに変動するため、関連計画との整合性を図りながら検討を進めます。

(G 委員) 認可外保育施設への補助に感謝しております。施設間で情報格差が生じ

ないよう、公平な情報提供をお願いします。また、DXの推進は利便性が高い一方で、子どもたちのネット依存など、メディア接触による悪影響も懸念されます。依存症対策や、『ノーメディアデー』といった情報教育の取り組みも検討してほしいです。

⇒（事務局） 毎月開催している幼保園長会を通じて情報共有を行っておりますが、引き続き情報共有に努めてまいります。児童館のWi-Fi整備に際しては、現場の意見を取り入れ、利用時間や申請制導入など、ルールを定めて適正な利用を促す方向で検討しています。

（H委員） 『子どもの遊び場の整備促進と遊具貸し出し事業』についてですが、具体的にどのような種類の遊具を、どこから借りてきて、どのようなイベントに貸し出すことを想定されていますか。

⇒（事務局） 市が新たに購入する遊具を、市の主催イベントのほか、地域の文化祭や企業の催事など、様々なイベントに貸し出す予定です。

（委員長） 『こども誰でも通園制度』についてですが、これはネグレクトの家庭の子どもを預かり、ケアできるようになるという理解でよろしいでしょうか。

⇒（事務局） そのような側面もございますが、主には慣らし保育や医療的ケアが必要な子どもの環境整備など、子どもの成長を促し、多様なニーズに応えるための制度として位置づけられている側面もございます。市としてどのような提供となるかは、今後検討してまいります。

（I委員） 先日、学校の振替休日に地域とPTAが連携し、公民館を『開放DAY』として活用しました。食育改善委員の方々と一緒にカレーを作るなど、保護者からも大変好評でした。市の事業の成果を測る際には、件数だけでなく、このような参加者の満足度や、地域コミュニティの活性化といった多角的な視点も重要ではないでしょうか。

⇒（事務局） 大変素晴らしい取り組みで、感銘を受けました。市の「子どもの居場所づくり事業」の好事例として、他の地域にも展開できるよう参考にさせていただきます。

4 その他 閉会

次回の会議は令和8年2月上旬頃に開催される予定です。宇野会長と山田総合政策部長より閉会の挨拶があり、本会議は終了しました。

(閉会 午前12時00分)

以上